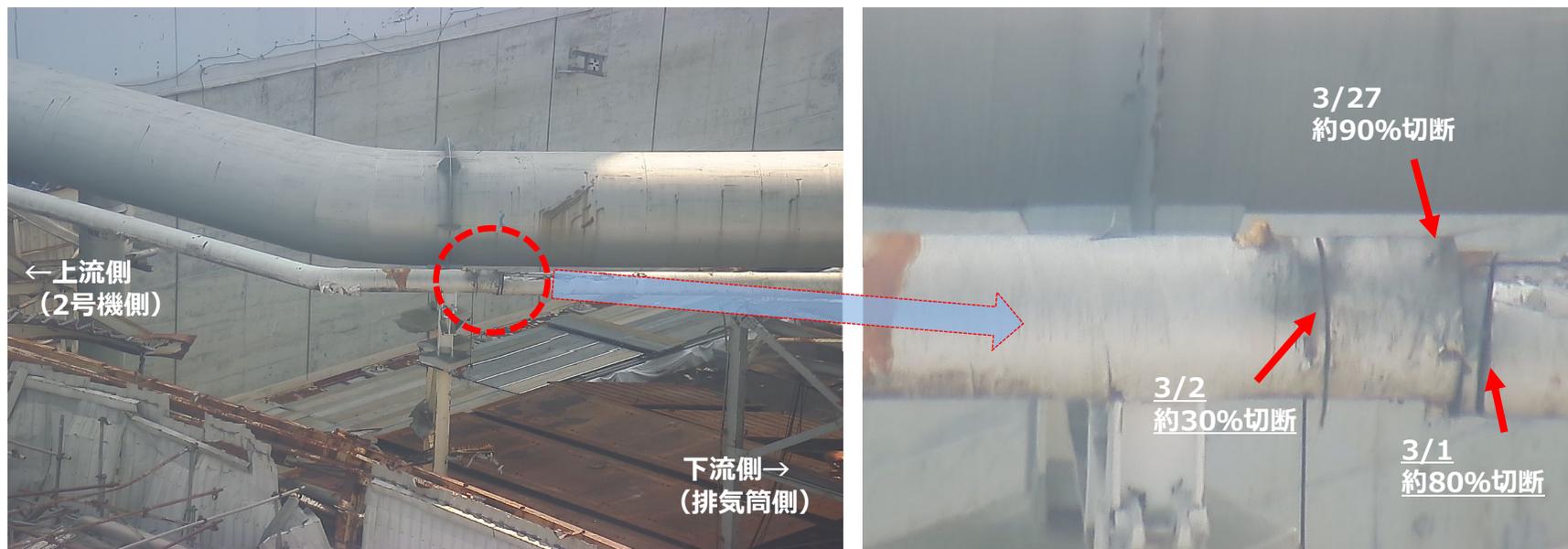


- 1・2号機非常用ガス処理系配管（以下、SGTS配管）については、今後予定している1・2号機廃棄物処理建屋の雨水対策工事、ならびに1号機燃料取り出し用大型カバーの設置工事に干渉することから、工事干渉範囲のSGTS配管の一部を撤去する計画としています。
  - SGTS配管切断作業については、3月2日までに確認された不具合の対策として、以下対策を講じたうえで、昨日（3月27日）午後4時4分から、遠隔切断配装置を用いた管切断作業に着手しました。
    - ・配管切断時にワイヤーソーの刃の摩耗量が不均一とならず、安定的に切断できる油圧や流量等のパラメータを特定
    - ・作動油の温度をメーカー推奨値である30℃～40℃に維持するよう管理
  - その後も慎重にSGTS配管の切断作業を進めておりましたが、同日午後4時30分頃、切断装置ワイヤーソーの刃が配管に噛み込み、ワイヤーソーが動作しなくなったことを確認しました。その後も復旧を試みましたが、刃の噛み込みが解消しないことから昨日（3月27日）午後8時20分、作業の中断を判断し、切断装置の配管把持状態を解除し、同日午後9時52分、クレーンにて切断装置の吊りおろし作業を完了しました。
  - ワイヤーソーの刃が配管に噛み込んだ原因については、現在調査中であり、現時点で不明ですが、速やかに原因究明を行い、再発防止対策を検討してまいります。 <2022年3月28日迄にお知らせ済>
- 
- 昨日（4月19日）、現場調査の一環として、SGTS配管の状況を確認することを目的に、当該配管の写真撮影を行いました。その後、撮影した写真の確認を行っていたところ、3月27日の作業において、刃が噛み込み、切断作業を中断した配管部分に歪みを確認しました。
  - 本日（4月20日）、SGTS配管の歪み拡大防止の観点から、準備が整い次第、SGTS配管をワイヤーで主排気ダクトを支える土台へ固定する処置を講じてまいります。

- なお、SGTS配管切断時に切断面からダストが飛散することを防ぐことを目的に、配管内に発泡ウレタンを充填しており、切断面からダストが飛散するリスクはないと判断しておりますが、本日（4月20日）、切断部分の近傍に設置しているダストモニタを用いて、ダスト測定を実施し、バックグラウンドと同程度であることを確認しております。また、周辺ダストモニタやモニタリングポストの指示値に有意な変動がないことを確認しており、環境への影響はありません。
- 引き続き、安全最優先で作業を進め、ワイヤーソーの刃が配管に噛み込んだ原因調査を進めてまいります。

1号タービン建屋屋上から撮影



拡大図

SGTS配管下部（2号廃棄物処理建屋）から撮影



拡大図

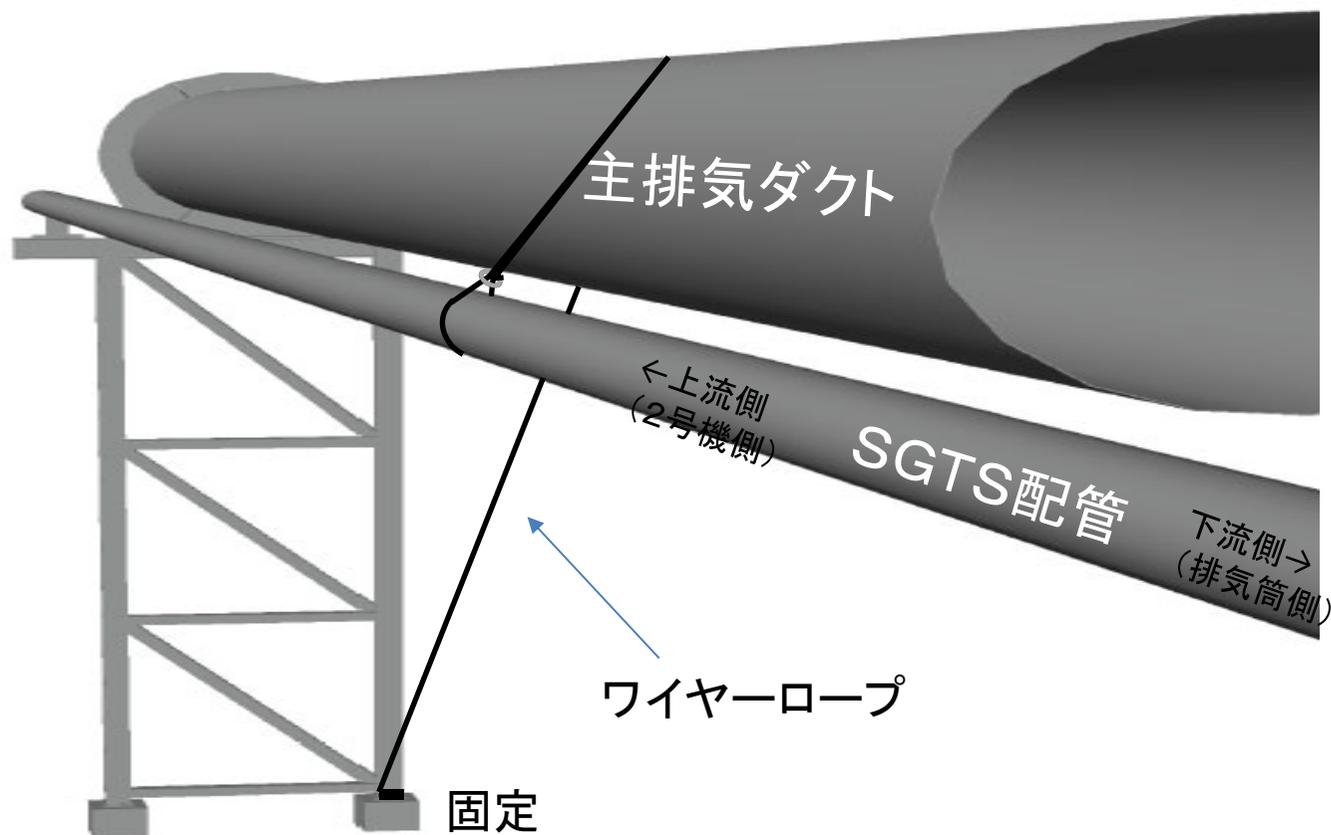
SGTS配管下部エリア



SGTS配管  
主排気ダクト

## SGTS配管歪み拡大防止対策

- ①クレーンでワイヤーロープを吊りさげSGTS配管上部から垂らす。
- ②下でワイヤーロープの端部を繋ぎ込む。
- ③クレーンにて引き上げ主排気ダクト上部を通し再度下へ垂らす。
- ④下でSGTS配管の主排気ダクトを支える土台へ固定を行う。



# 【参考】 3月27日切断位置 (イメージ)

## ➤ 配管切断計画位置

